

LIFE × DESIGN

宮崎県 こども政策課
TEL:0985-26-7056
E-mail:kodomo-seisaku@pref.miyazaki.lg.jp

宮崎大学清花アテナ男女共同参画推進室
TEL:0985-85-1252
E-mail:info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp

わたしらしい
ライフデザインってなんだろう？
自分で選ぶチカラが、
自分を生きるチカラに変わる



ライフデザインを考えるために

平成29年度ライフデザイン事業報告書

宮崎県こども政策課 / 国立大学法人宮崎大学
2018年3月

わたらしいライフデザインってなんだろう？
 // 自分で選ぶチカラが、自分を生きるチカラに変わる //

ライフデザインを考えるために

平成29年度ライフデザイン事業報告書



Introduction

このパンフレットは、県内の大学・短大等の学生など若い世代の方に対し、一人ひとりのライフデザインについてイメージしてもらうために行った「平成29年度ライフデザイン事業」の取組について紹介するものです。

これからの人生をどう歩んでいきたいか…このパンフレットを通じあなた自身の未来について考えていただければ幸いです。



Content

コンセプト	01
ライフデザインアンケート	02
ライフデザインを考える出前講座	10
ライフデザインシンポジウム	12
宮崎県における少子化等の状況は？	16



“ライフデザインってなに？”

それに、わたらしいライフデザインなんて言われてもよくわからない…”

そんなふうを感じる人もいるかもしれません。

でも、難しいことではないのです。

ライフデザインとは、
 自分がこれから歩いていく人生の方角や距離、スピードを見定めること。

暮らすこと。働くこと。生きること。

それらは、とてもシンプルで当たり前のことのようにも思えますが、

そこにこんな変数を加えてみると…

「誰と」「いつ」「どこで」「どのように」

あなたのライフデザインの可能性はぐんと広がります。

そして、そこから、なにを選び取るかはあなた次第。

わたらしいライフデザインってなんだろう？

そんなシンプルだけど、とても大切なことを考えてもらうことが、

このパンフレットの役割です。

これから迎えるかもしれない就職、結婚、家族との関係など…

「仕方ない」とネガティブに選ぶより、「私はこれ!」とポジティブに選んでほしい。

きっと、それがあなたの豊かな人生につながるはずだから。

さあ、自分で選ぶチカラを身につけて、あなたらしい人生を楽しんでください。

宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生

549人に聞きました!

このアンケート調査では、若い世代の方が結婚や出産・子育てなどのライフイベントに対してどのような意識を持っているかを把握するために実施しました。

調査実施にあたっては県内の大学等高等教育機関にご協力いただき、549名の学生から回答を得ることができました。

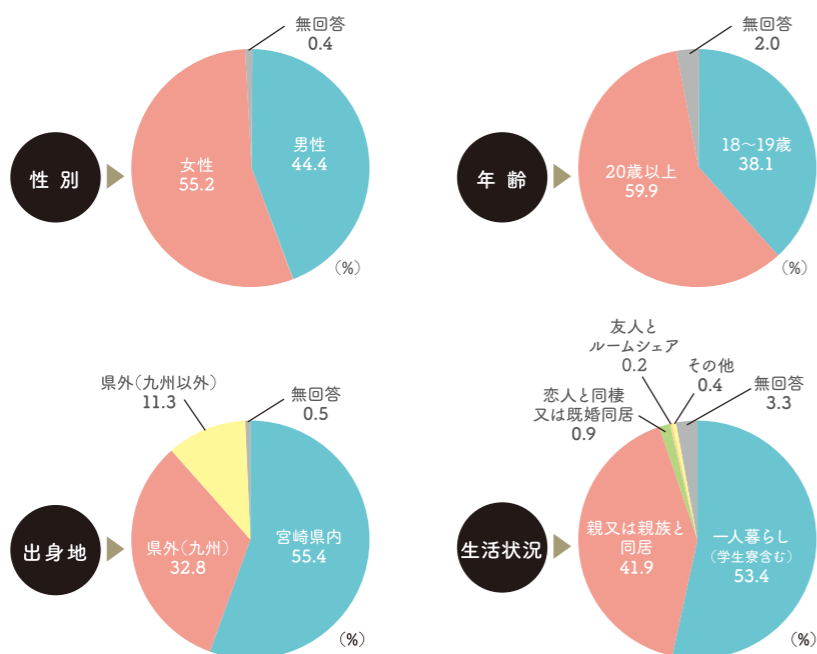
これからさまざまな人生の選択を行うことになる皆さんは、将来の人生や暮らしについて何を感じ、どのような期待と不安を抱いているのでしょうか…?

ライフデザインアンケート～結果のまとめ

実施内容

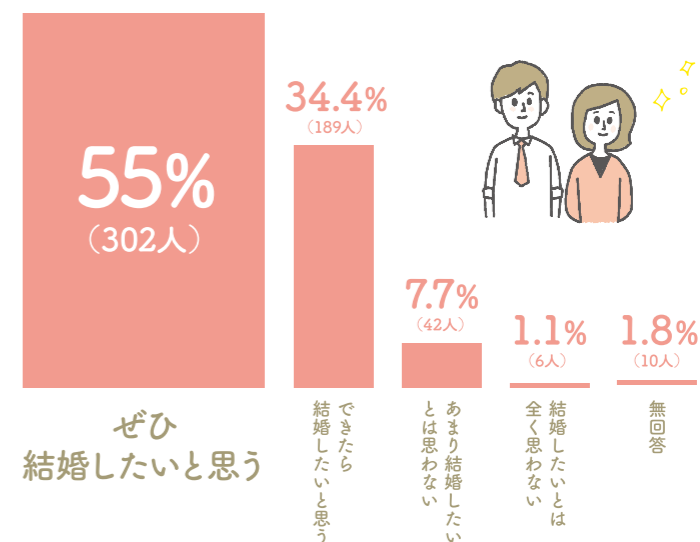
- 実施時期：2017年10月～11月
- 協力機関：宮崎大学、宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、宮崎産業経営大学、九州保健福祉大学、宮崎国際大学、宮崎学園短期大学、南九州大学、南九州短期大学、都城工業高等専門学校 計10機関
- 配布数：1,026通
- 回収数：549通(回収率53.5%)

回答者の属性

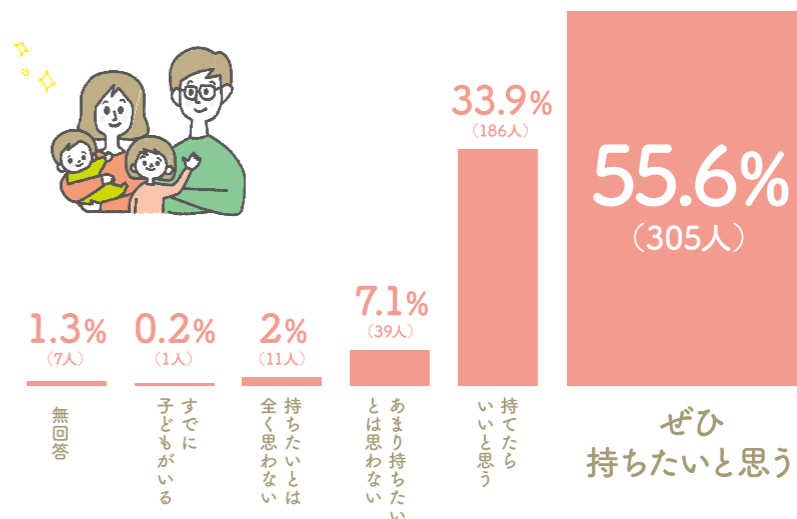


回答者の多くが「結婚したい」「子どもを持ちたい」と考えています。

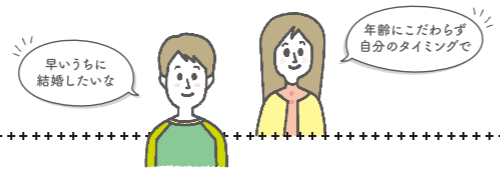
Q. あなたは将来結婚したいと思いますか? (単数回答)



Q. あなたは将来子どもを持ちたいと思いますか? (単数回答)



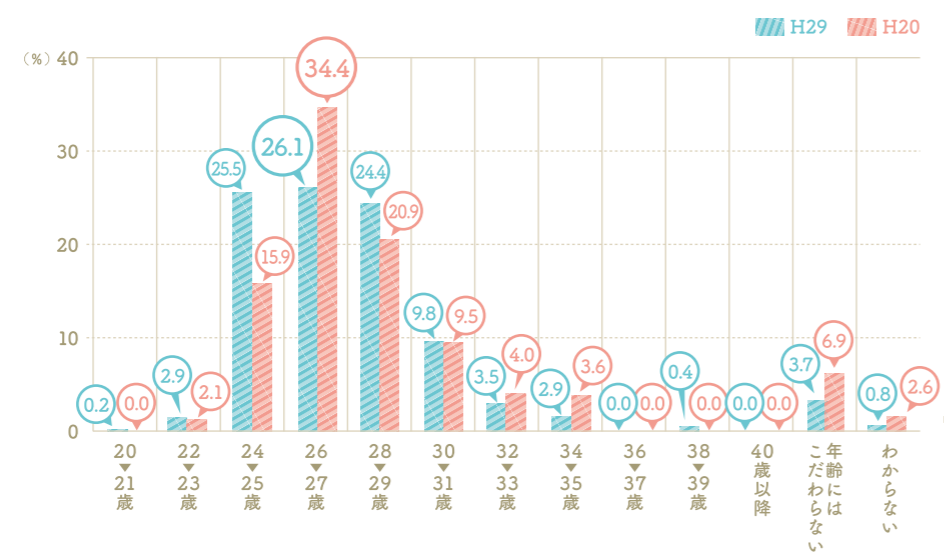
宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生 **549人**に聞きました!



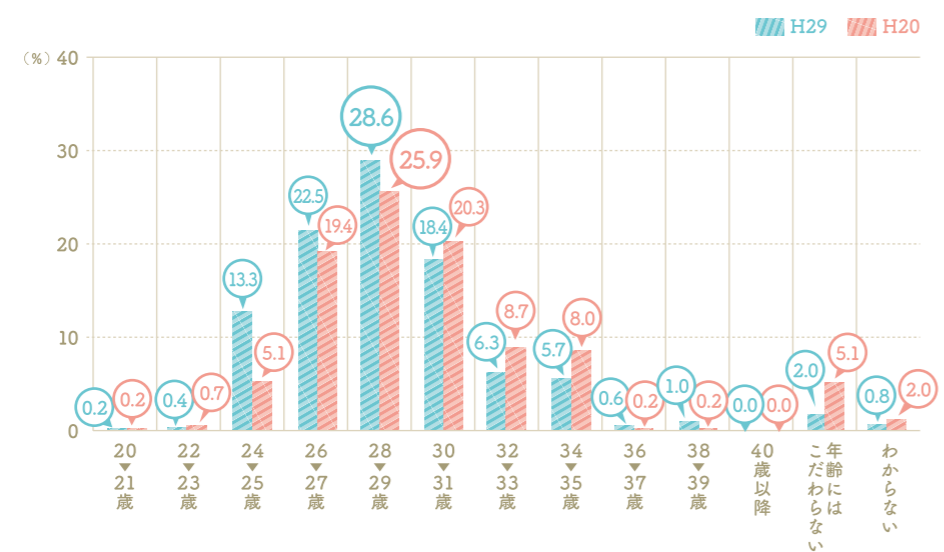
ライフデザインアンケート～結果のまとめ

「20歳代のうちに」と考えています。
結婚や子どもを持つことを希望する人の多くが

Q. あなたは何歳くらいまでに結婚したいと思いますか。
「ぜひ結婚したいと思う」「できたら結婚したいと思う」と答えた人のみ(単数回答)

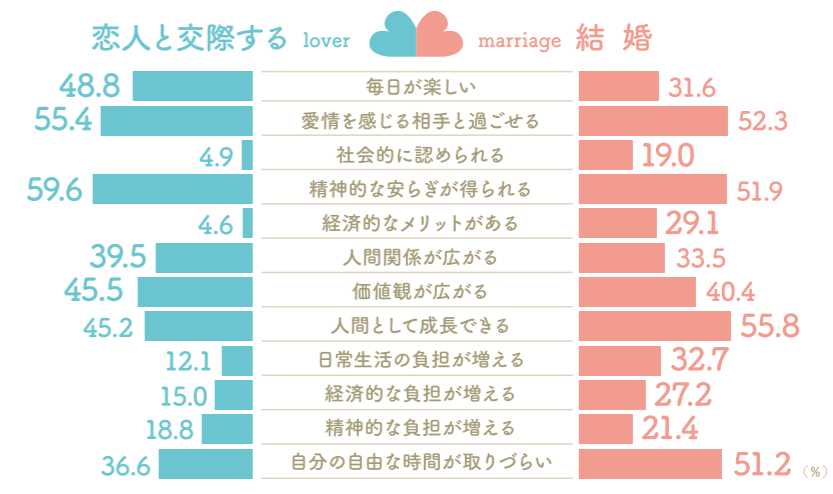


Q. あなたは何歳くらいまでに第1子を持ちたいと思いますか。
「子どもをぜひ持ちたいと思う」「子どもを持てたらいいと思う」と答えた人のみ(単数回答)

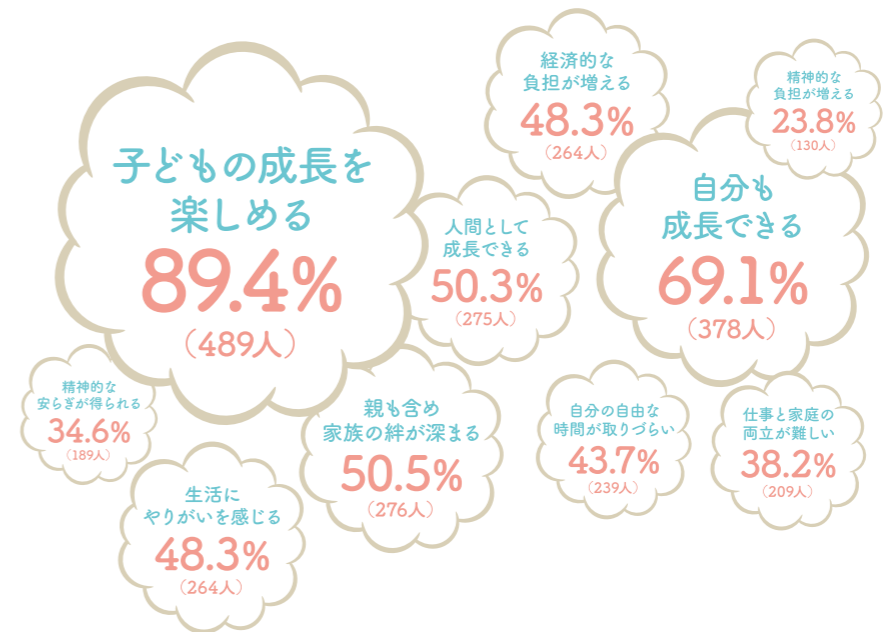


「交際」と「結婚」に対するイメージは異なっています。

Q. あなたは「恋人と交際する」&「結婚」について、どのようなイメージを持ちますか？(複数回答可)

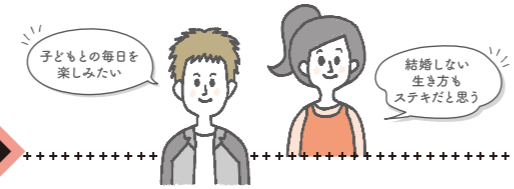


Q. あなたは「子育て」に対して、どのようなイメージを持ちますか？(複数回答可)



「子育て」に経済的な負担などをイメージする人も多いようです。

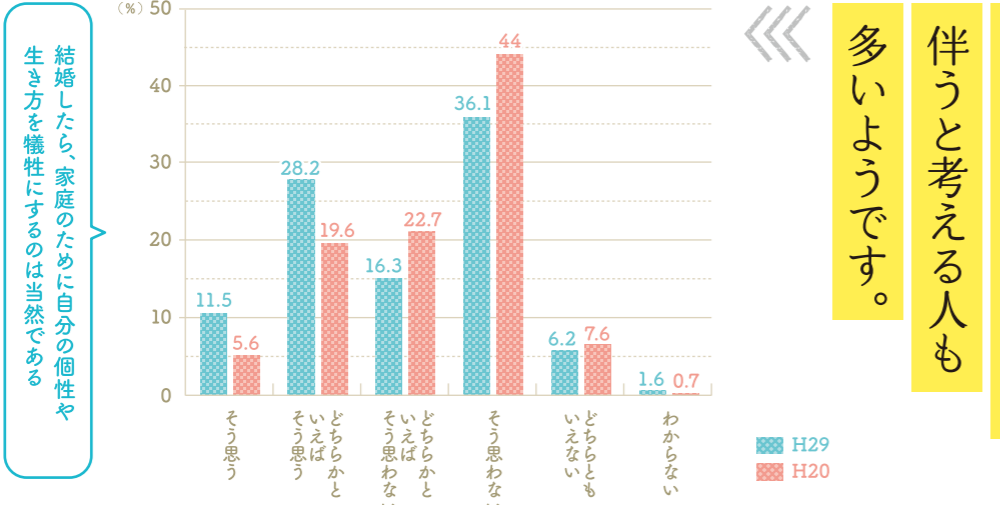
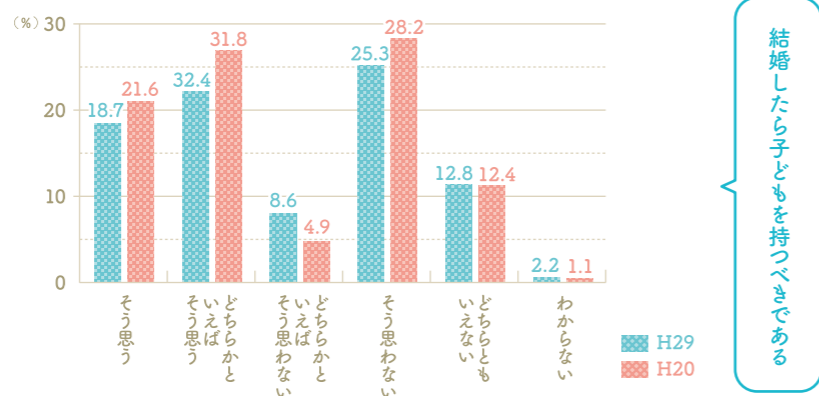
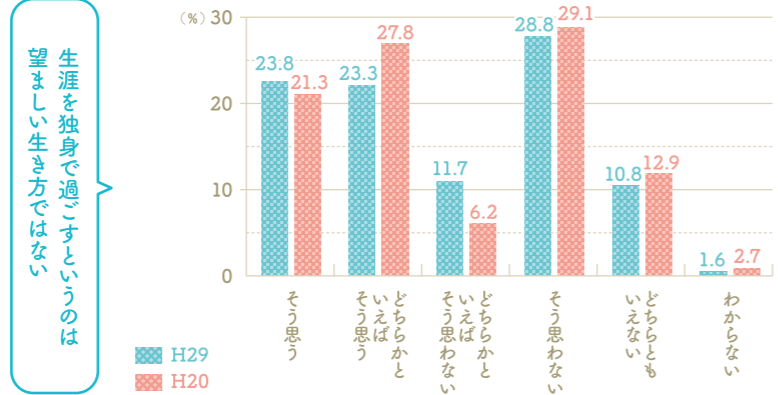
宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生 549人に聞きました!



ライフデザインアンケート～結果のまとめ

「結婚しない」「子どもを持たない」…
ライフイベントへの考えは多様化しています。

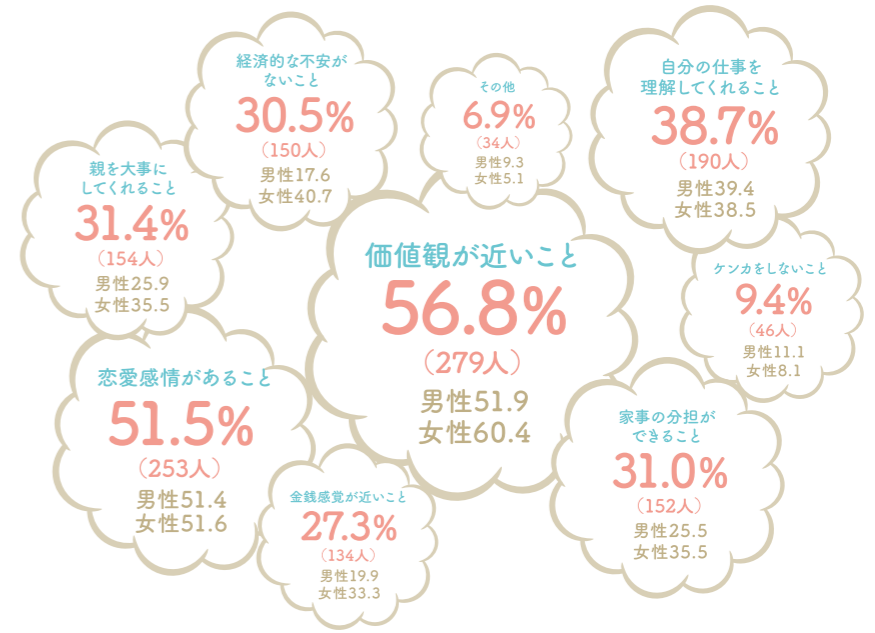
Q. 次の考え方について、どのように感じますか。
自分の考えに最も近いものを選んでください。(単数回答)



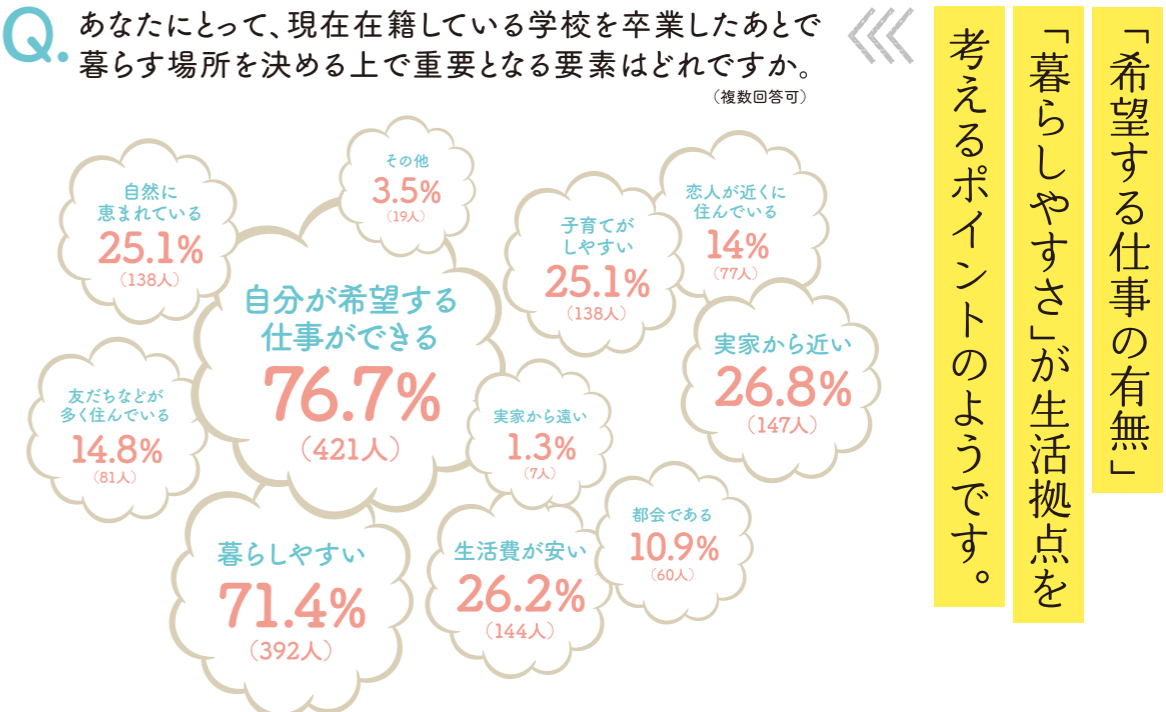
結婚には自己犠牲も
伴うと考える人も
多いようです。

Q. あなたは、結婚相手に何を望みますか。
(「ぜひ結婚したいと思う」「できたら結婚したいと思う」と答えた人のみ)(3つまで回答可)

結婚相手に
「仕事への理解」「家事の分担」を
望む人も少なくありません。



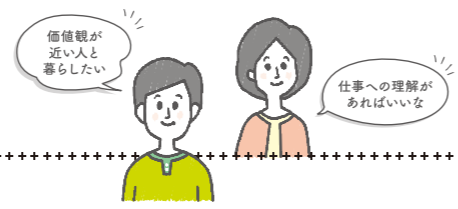
Q. あなたにとって、現在在籍している学校を卒業したあとで
暮らす場所を決める上で重要となる要素はどれですか。
(複数回答可)



「希望する仕事の有無」
「暮らしやすさ」が生活拠点を
考えるポイントのようです。

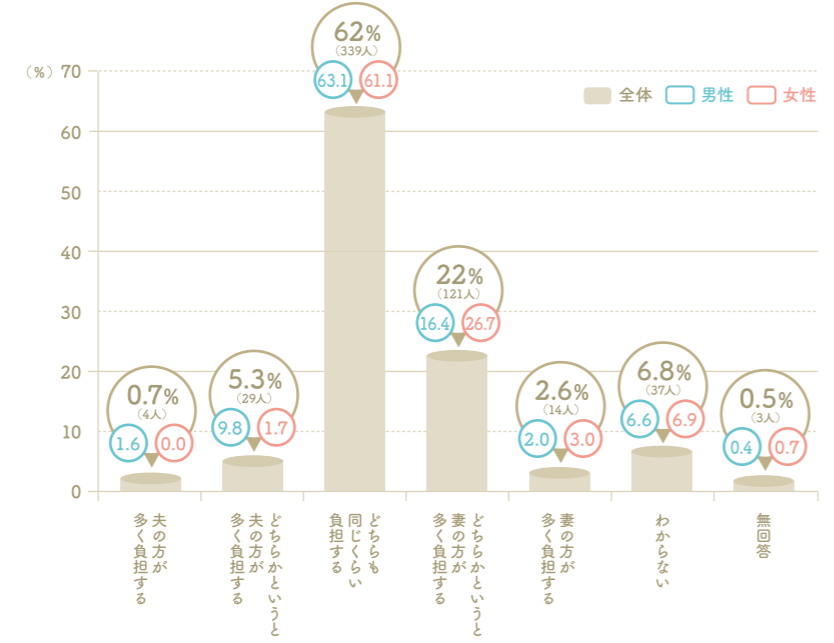
宮崎県内の大学・短大・高専に在籍する学生 549人に聞きました!

ライフデザインアンケート～結果のまとめ

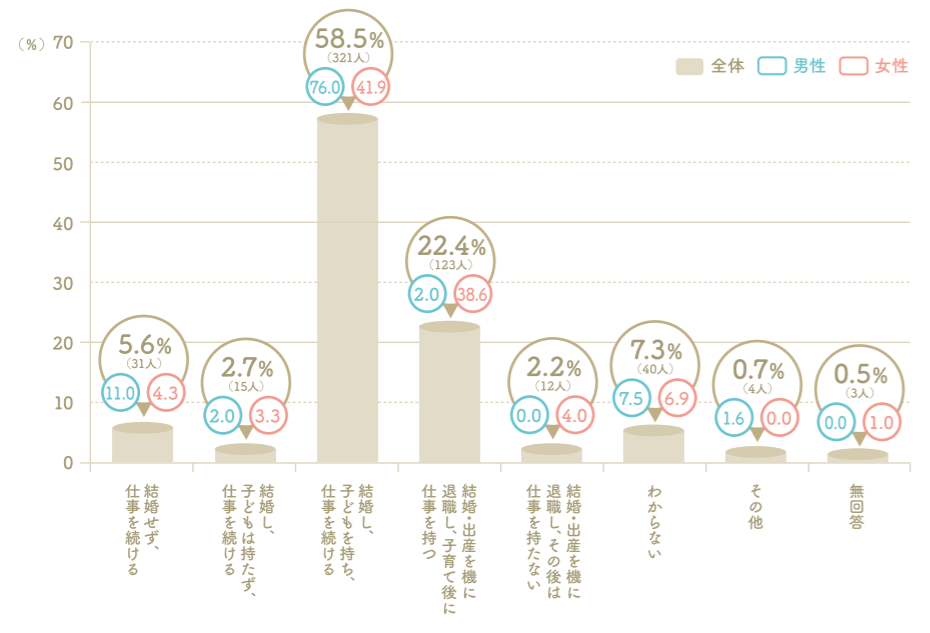


家事・育児を夫婦で分担するという意識は男女ともに広がっています。

Q. あなたは、夫婦間での家事や育児の負担について次のうちどれが望ましいと思いますか? (単数回答)



Q. あなた自身のこれからの生き方・働き方として、次のうちどれが一番望ましいと思いますか。 (単数回答)



これから希望する生き方・働き方は男女間で違いが見られます。

Q. 結婚、子育て、少子化について感じることや考えなどを教えてください。(自由記述)

今は結婚して子育てしたいという気持ちがあるが、就職して仕事面で生活が充実すればその気持ちも変わるかもしれない。(20歳/女性)

結婚も子育てもしたいが、キャリアを諦めることはできないのでタイミングが大事だと思う。(22歳/女性)

自分が結婚して、子どもを産んだときに子育てしやすい環境が整っていたらいいと思います。(19歳/女性)

私は早いうちに結婚をして子どもが欲しいなと思っていますが、育児休暇などで仕事を長期に休んだ場合にすんなり職場復帰できるのかと考えることがあります。(20歳/女性)

結婚して上手くいか分らないし、一緒に生活して相手の悪いところを受けとめられるかどうか不安です。(20歳/女性)

結婚・子育てをすると自分の時間がなくなり大変なことだらけだと思うが、それが日々の充実につながるのかなと思っている。(19歳/女性)

結婚や子育ては人生において重要なことのひとつだし、出来るならすべきだと思う。自分が大きく成長するチャンスももらえると思う。(21歳/男性)

「結婚していない＝ダメ」といったイメージはなくてほしい。(21歳/男性)

実家など頼れるところがなく、「孤育て」をせざるを得ない母親も多くなると思う。地域で子どもを育てる制度をさらに普及させれば良いと思う。(21歳/女性)

夫と妻で平等に家事・仕事・子育てができるといい。(20歳/女性)

結婚は幸せと言う人もいれば、結婚しなければ良かったという人もいます。何が正解なのか良く分からないと思う。それぞれ価値観で決まってくると思う。(21歳/男性)

結婚や子育てに関して、「できたらしたい」が、今までお付き合いした人もおらず現実味がない。恋愛以前に人との関わり、異性と関わりが薄いのできっかけが少ない。(21歳/女性)

結婚や子育てについて積極的にしたいと感じるが、いろんなことが漠然としていて不安の方が多い。結婚や子育てが楽しいものだと思えるような人生を歩みたい。(20歳/女性)

企業は、若いころに転職や異動などで定住できないことがないようにしてほしいと思う。定住できる地があると、結婚・子育てがしやすくなると思う。(21歳/男性)

女性は結婚すると家事や育児ができて当たり前、逆に、男性が家事や育児をするとイクメンなどと呼ばれるような風潮が気になります。男性が家事や育児を積極的に行うことはとても良いと思いますが、家事や子育てを頑張っている女性・家庭を持っていない女性も認められるような環境になればいいなと思います。(21歳/女性)

事実婚、養子、同性愛など多様性がある、それぞれが選択できる、選択しやすい環境になってほしいです。(20歳/男性)

子どもを産み育てることは各個人の自由であり、それぞれの考えがあって当然だと思う。(20歳/女性)

「選ぶ」ことについて考えてみよう!

この出前講座のキーワードは、「選ぶ」こと。

これまでの選択の積み重ねが一人ひとりの「今」を作り上げているということ、そしてその選択には自分の意思だけでなく、さまざまな社会的背景や「こうあるべき」という思い込みにも影響を受けているということに気付くきっかけとなったようです。



work 1 「これまであなたが選んできたこと」
今朝起きてから、自分が行った「決断」を書いてみよう
これまでの人生であなたが決断してきたことを思い出してみよう

work 2 「決断のウラにあるもの～ジェンダーを知る」
マンガのセリフや育児に関する相談への回答を考えてみよう

work 3 「データから気持ちを読み解く」
生涯未婚率や性別の年齢階級別賃金などのデータから社会背景を読み解いてみよう

まとめ 「これからあなたが決めていくこと」
<大学卒業まで><25歳まで><30歳まで><それ以降>で、
これからの自分が決めていくことを書き出してみよう

「メッセージ」で違いを知ろう、伝えよう!

この出前講座のキーワードは、「多様性の尊重」と「意識の外在化」でした。

さまざまなワークを通じて、自分と他者との「違い」を私メッセージ(“私”を主語にしたメッセージ)で伝え合うことの大切さに気付くとともに、その「違い」を尊重し受容する環境をつくっていくことの重要性について考える場となったようです。

Ice breaker 「自分の名前を書いてみよう」
自分の利き手ではない方の手で自分の名前を書いてみよう

work 1 「お絵かきタイム」
ファシリテーターからの6つの指示を聞いて自分の思いのまま絵を描いてみよう
ルールはたったふたつ!「しゃべらない」「のぞかない」

work 2 「仲間を探そう」
一人ひとりの背中に複数の色のシールをペタッ!自分のシールが何色かわからない状態で、しゃべらずに同じ色の仲間を探してグループを作ろう

discussion 「どんな気持ち?」
シールの色ごとにグループに分かれて、絵を描いたときの「気持ち」や、
絵を見せ合った「感想」を話してみよう

出前講座

活動の様子



2017年11月17日
宮崎公立大学
1～4年生(52名)
〈ファシリテーター〉
NPO法人ドロップインセンター
黒田 奈々さん
宮崎大学 清水 鈴代



2017年11月17日
南九州短期大学
1・2年生(25名)
〈協力〉金 湛先生
〈ファシリテーター〉
NPO法人ドロップインセンター
黒田 奈々さん



2018年1月18日
宮崎大学
2・3年生(9名)
〈協力〉
地域資源創成学部
足立 文美恵先生
〈ファシリテーター〉
宮崎大学 清水 鈴代



2018年1月19日
九州保健福祉大学
1・2年生(20名)
〈協力〉
社会福祉学部
日田 剛先生
〈ファシリテーター〉
宮崎大学 清水 鈴代



2017年12月19日
宮崎大学 1年生(32名)
〈ファシリテーター〉 オフィスビュー 高崎 恵さん

受講生の声

- 自分の将来は、誰かに決められるのではなく自分で考えて決めていきたいと強く思った。今の社会の変化にも気付いていきたい。
- 子育てや家事はどちらか夫婦で協力して行うものだし、それが子どもに良い影響を及ぼすと思うから、2人でよく話し合っていくべきだと思った。相手の仕事に対する理解を深めればよい関係を築けるかもしれない。
- 「自分のライフデザインを作る」というと難しいことのように感じたが、自分の将来ありたい姿を考えるのはとても楽しかった。
- 日本人は自分の思いや考えを持っていても、内在化する傾向にあると言われ、自分もそうだとドキッとした。これからは、「違い」を認める社会になるべきだと分かった。
- 自分はあまり人と話すのが得意ではないが、自分から働きかけてコミュニケーションをとることが、環境を変えていく力を持つと感じた。

“逃げ恥”と考えるわたらしい生き方 ～自分で選ぶチカラが、自分を生きるチカラに変わる～

日時/2018年2月24日(土) 13:00~16:00

会場/宮崎大学 創立330記念交流会館 コンベンションホール

参加者/約120名

大学生アンケート結果報告

大学生向けに実施したアンケート調査を宮崎大学の学生6名が
同世代の目線から分析!
その結果をシンポジウム会場で報告しました。

徹底的に
分析しました!

Comment

『恋愛と結婚は別』と考える人が多い反面、結婚する相手には『恋愛感情があることを求める』という結果。皆さんはなにを結婚の決め手にしているのだろうか?



Comment

子育てに対して、マイナスのイメージを持っている人は男性より女性

Comment

私たちのような世代にとっては親をはじめとする周囲の大人の考え方が大きく影響するのでは?



Comment

自分と異なる意見も尊重し、人それぞれの多様な生き方が認められる社会になってほしい!



ワークショップ

大学生アンケート結果報告でも取り上げた質問を切り口にしたワークショップを実施しました。

あらかじめ配布した赤・青のカードを使って会場の皆さんにも参加していただくというもので、それぞれが悩みながらも楽しんでもらえたようです。

〈ファシリテーター〉
エフエム宮崎 膳憲太さん
ライター 佐藤結衣さん



提示する質問に対して「そう思う」という方には赤いカード、「そう思わない」という方には青いカードを挙げてもらいました。

Q. 生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない

{ 「そう思う」 ▶ 約3割 }

「そう思う」と答えた参加者の声

社会を維持していくには結婚して子どもを増やさないといけないと思うので。(男性)

自分自身に子どもを持ちたいという理想があります。そのためには結婚したいと思ってこちらを選びました。(男性)

{ 「そう思わない」 ▶ 約7割 }

「そう思わない」と答えた参加者の声

自分の周りに独身で過ごしている人が多いということがあってもいいけれど、独身でいることも一つの生き方としてありかなと思います。(女性)

幸せに暮らせるなら独身かそうでないかにこだわらなくていいのでは。(男性)

Q. 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

{ 「そう思う」 ▶ 約1割 }

「そう思う」と答えた参加者の声

自分自身が、質問にあるような家庭を築いてきました。いろんな考えを認めないといけないと思いつつも、ここで青(=そう思わない)を挙げると自分を否定してしまうような気がしたので赤(=そう思う)を挙げました。(男性)

{ 「そう思わない」 ▶ 約9割 }

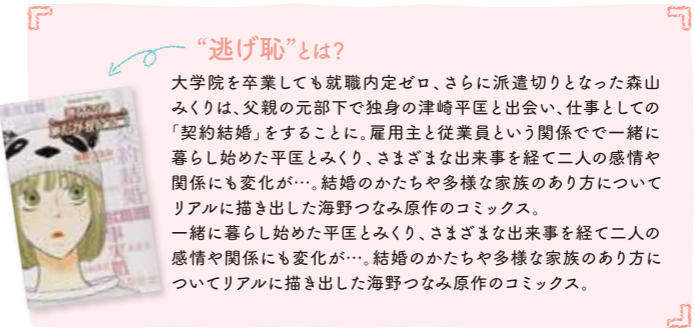
「そう思わない」と答えた参加者の声

我が家も妻が働いて家事・育児は共同で行うという毎日なので、妻が家庭を守るべきだという意識は全くないです。(男性)

トークセッション

2016年秋に放送され幅広い世代で話題となったテレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」(以下「逃げ恥」)の原作者である海野つなみさんと、ライターとして活躍中の佐藤結衣さんをゲストに迎えてのトークセッション。「逃げ恥」の印象に残ったエピソードやセリフを振り返りながら、家族の多様化とそれにまつわるライフイベントについて率直に意見を交わしました。

〈ゲスト〉漫画家 海野つなみさん 〈進行〉エフエム宮崎 膳 憲太さん
ライター 佐藤 結衣さん



Pick up!

佐藤さん 「結婚しないといけない」と思うこともありました。世の中にはそうではない道もたくさんあると思うようになりました。生き方はひとつではないと思います。今目の前にある選択肢の中だけで選ばなくても、自分が「こうなったらいいな」と感じることを実現していけるようになれば…と思います。

海野さん 「〇歳ぐらいで結婚して、子ども産んで…」という理想を持ち、それに沿って生きるのがいいという人もいれば、それを「しんどい」と思う人もいます。

膳さん 結婚もそれぞれの人に合うかたちがあるはずですよ。

佐藤さん 本人同士が「これが私たちのスタイルだね」と納得できるかたちがつくれるといいのかなと思います。

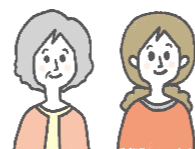
結婚に対する選択、あり方もそれぞれ

Pick up!

膳さん さまざまな選択肢、生き方がある中で、自分の選択なら責任を持つことができると思うんです。周りに何を言われようが自分が選んだものは、自身が「いい」「幸せ」と思っているもの。だからこそ、自分で選ぶ力を身につけてほしいですね。

海野さん 結婚していてもしていなくても、仕事をしていてもしていなくても、楽しく生きようと思いがら選択する。その積み重ねを続けることで、「私の人生、楽しかった」というところにたどり着けるんじゃないかなと思います。

自分で選んだことに、自分で責任を持つ



参加者の声

自分の将来を見つめ直すきっかけとなった。特に、恋愛や結婚のあり方についてたくさんの考えがあるのを知り、自分の考えとは違って、その「違い」を尊重できるようになりたいと感じた。(10歳代/男性)

他の人の意見を聞くことで結婚や将来に対する視野が少し広がったような気がします。(20歳代/女性)

これから未来に向かって歩いていく学生にライフデザインについて考えてもらい、意見を発表してもらう機会がもっと増えるといいなと思いました。(30歳代/女性)

多様な生き方が肯定されてきているとはいえ、まだ性別役割分担意識がしっかり刷り込まれているような気がします。親世代の結婚、家庭のあり方だけではなく、もっと多様な家族のあり方や生き方について知ることが必要ではないでしょうか。若い世代にこういう話題にもっと聞いてもらって、「自分で選ぶ力」を身につけてほしいです。(50歳代/女性)

多様な他人を許す“ということ”

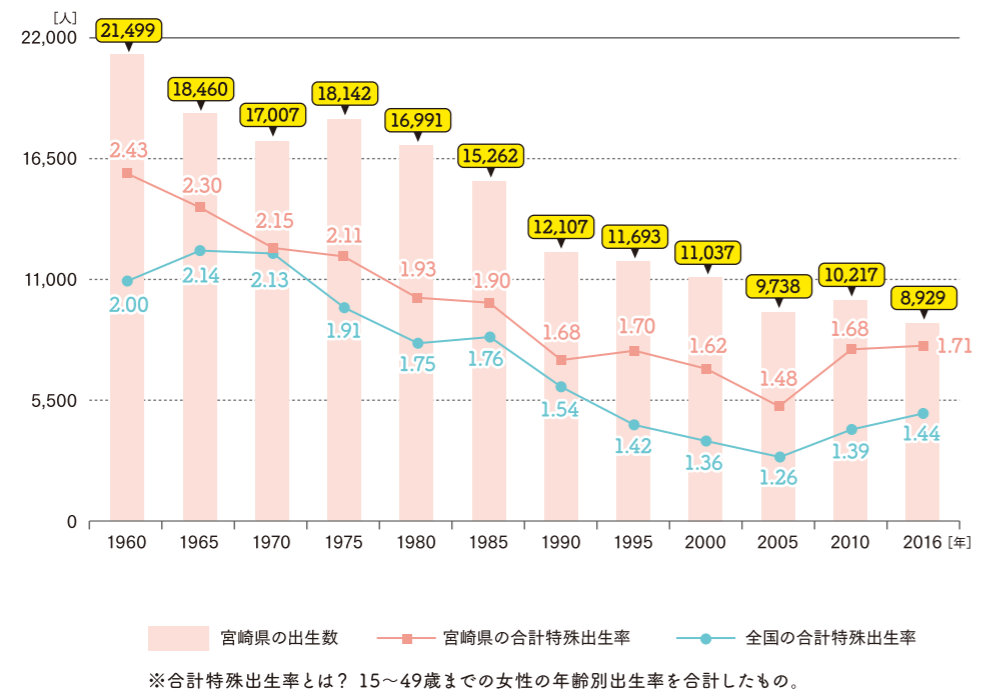
膳さん “多様性”の尊重が大切なことだというのはみんなわかっているけど、社会全体で見るとなるとないうまくいかない！それについて感じることはありますか。

海野さん 自分と違う他人を許せない人が多いような気がしますね。“許す”というのは、そのまま受け入れることではなく、“苦手だな”“合わないな”と思ってでも攻撃しないということ。変だなあと感じる人に対して「人それぞれだからね」と思えば、自分が「はみ出してるかも」と感じたときに「人それぞれだからね」と自分で自分を許せる。他人を許すというのは、まさに自分がラクになるためのスキルだと思うんです。

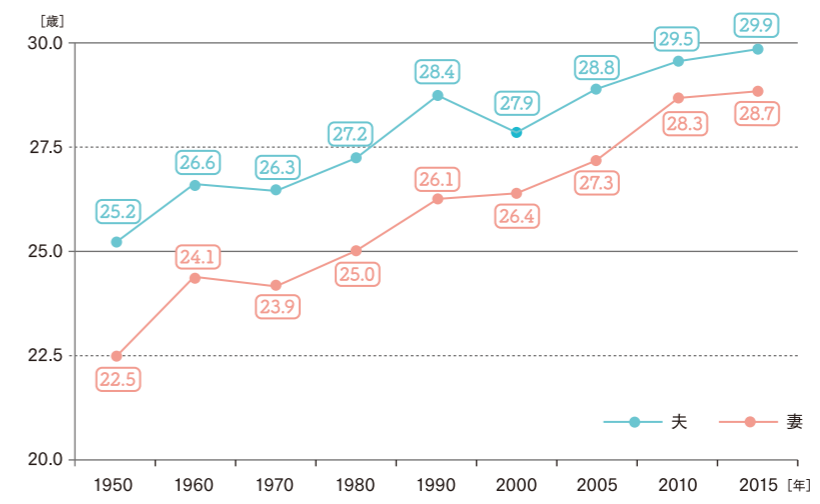
佐藤さん “逃げ恥”というタイトルのように、いったん逃げてでもまた戻ってきて改めたい距離感を測り直す…そんなスキルもあるといいですね。

宮崎県における少子化等の状況は？～データから動きを読む

【DATA1】
 1年間に生まれる子どもの数は徐々に減っています
 合計特殊出生率*も全国的には高い水準にあるものの、
 人口維持に必要とされる2.07を下回る状態が続いています



【DATA2】
 初婚年齢は少しずつ上昇しています



【DATA3】
 生涯を通じて結婚をしない人が増えています

